



194号

2014/6/1

日中文化交流市民サークル‘わんりい’

東京都町田市能ヶ谷7-32-12 田井方

〒195-0053 TEL&FAX:042-734-5100

<http://wanli-san.com/>

Eメール:wanli@jcom.home.ne.jp

◆‘わんりい’ HPのアドレスが上記になりました。



雲南のお母さん(2007年撮影) 雲南省昭通市大關県・協会支援第15校「日中友好木杆林区僑心小学校」開校式にて(ミャオ族)
日本雲南聯誼協会は、経済発展から完全に取り残された雲南省山岳地域の少数民族を対象に、14年間に亘って教育支援活動を行っています。
活動の柱となる小学校建設事業では、これまでに23校を建設、1万3千人もの子供たちに安全かつ衛生的な学習環境を提供してきました。ここ
では、貧困に屈せず、明るく逞しく生きる雲南少数民族の人々やその生活をご紹介します。(写真提供 認定NPO法人日本雲南聯誼協会<http://www.jyfa.org/>)

聞くところによると、世界中でネット人口の一番多い国は中国だそうで、4億人以上が利用していますが、これは人口が多いために現れた数字で、普及率は未だ30%余りのようです。第2位はアメリカで2億3千万人余り、普及率は76.3%、第3位が日本で、約9千6百万人、普及率は75.5%となっています。これらの数字はちょっと古いので(中国は2010年、アメリカ・日本は2009年現在)、現在は違った数字が出ているのでしょうか、傾向としては変わらないでしょう。

最近のニュースで、中国の人達は、携帯からインターネットにアクセスする割合がPCからアクセスする割合を超えて、益々手軽にネットを利用しているようです。10年以上前に、初めて携帯電話が導入された時も、普及が遅れていた固定電話の代わりに、瞬く間に利用者が増え、北京市中心部で周りを見渡すと、日本より普及率が高いのではないかと思える程になりました。これが、便利なものはどんどん取り入れる、中国式合理性なのでしょう。

中国でのIT機器の導入・普及は、学校の生徒が飛び級で進級するように、短い時間で広がって行きました。今中国では、携帯電話を使ってネットにアクセスして、情報を得たり、意見を述べたり、行動を呼びかけたり、或は規制をかけたりとフルに活用している人達がいるようですが、それはごく一部、主に若い世代の人達でしょう。年配の人達の情報源は何かと言うと、もっぱら噂話のようです。地域の話題はこれで十分に伝わるようですが、もう少し広い範囲の情報を得るのはなかなか大変でした。

ある日、家の近くで繁盛しているレストランが急に店を閉めてしまいました。美味しい料理を出すので、時々利用する店だったのでビックリしました。日本でしたら、張り紙等で、“何日から〇〇へ移転します”とか、“都合により閉店します”とか“お知らせ”がありますが、この店は何のお知らせもありませんでした。暫くすると、その店のあったところは、周り一帯と一緒に取壊され、工事用囲いがされてしまいました。噂では、大きなホテルが建

つそうで、早速大規模な工事が始まりました。

このような工事ですと、日本では、施工主が近隣住民を集めて説明会を開いたりしますが、北京ではそんなことは全く無く、噂通りに大きな建物が出来ていくのを見守るだけでした。因みに、件のレストランが数ブロック離れた場所で営業しているのを、後日、偶然に見つけました。“こんな近くで営業再開するなら、折り込み広告でもして……”と考えて、ふと気が付きました。

北京では新聞の戸別配達制度はないのです。人々が新聞を読みたければ、外に買いに行くしかありません。販売所は、バス停の近くや大きな交差点付近に小屋がけして、半円状に売り台を広げて、様々な新聞や雑誌を売っています。2、3日前の新聞まで手に入るようです。しかし、新聞を買う人は非常に少なく、殆どの人は、小区やバス停の近くに設置された大きな掲示板のガラス戸の中に、新聞(人民日報)を全頁、表裏を張り出してあるのを読んでいました。一時期有名になった壁新聞を連想させる光景です。

中国の新聞は、人民日報は別として、タブロイド版が多く、日刊紙の外、隔日刊、週刊、“晩報”と言う夕刊紙もかなりの種類出ているようです。2006年頃から、希望する人には戸口まで配達してくれる新聞も出て来ました。でも、希望する人は少なく、マンションの1棟200戸位の中で配達するのは5戸だけと言っていました。尤も、これはサービスが始まったばかりの時ですから、今ではもっと増えていることでしょう。

こう考えてみますと、日本は、公私共に、“お知らせ”をしようと言う気持ちも、そのための手段も実によく発達していると思います。地方行政の住民に対する思いやり、と言う観点から見ると、必ずしも満足の行くものではありませんが、我々が自発的に、何か活動を広めたい、活動に参加したいと思えば使える手段があり、商業者が宣伝をしたいと考えて費用を負担すれば、効果的な方法が沢山あります。そのお陰で、我々の日常生活は随分便利になっていると思います。

業績不振に陥った会社が、心機一転し再建を期しての社長の挨拶などで「これから全員一丸となって……」などと話しますが、これは社員が皆同じ目標に向かって一心同体となって頑張ろうということを言っているわけです。

このように“一心同体”は良く耳にする慣用句ですが、同じ意味の中国語の熟語に“同心同徳”があります。辞書ではそれぞれ次ぎのように載っています。

▲小学館 デジタル大辞典：

「一心同体 二人以上の人が心を一つにして行動すること」

▲小学館 中日辞典：

「同心同徳 *tóng xīn tóng dé* 一心同体である。心を一つにする」

この成語の出自は「尚書¹⁾・泰誓」の“受有亿兆夷人，离心离徳，予有乱臣十人，同心同徳”(受(紂王のこと)は多くの野蛮人を有し、和が乱れている。予(武王のこと)には有能な臣下が十人有って、心を一つにしている)の部分です。

商朝(殷ともいう。前1555年～前1059年)の末年、商の紂王は凶暴残虐で自身は酒色に溺れきっており、庶民に対しては重税を課していました。そのため民衆の不満は極めて大きく、‘恨み骨髓に徹して’いました。このような状況から、商の諸侯たちは機に乗じて紂王を倒そうと次々に兵を挙げはじめました。

諸侯の中の周国の君主の武王²⁾は周囲の八カ国の君主と同盟を結び、三百両の兵車、三千名の決死隊の勇士と四万五千人の兵士を動員して、紂王征伐に向かうことにしました。

隊伍が出発する際に武王は將軍と兵士たちに向かって話しました。「紂王は幾千幾万もの人民を支配し、わが軍よりも遥かに膨大な人数の軍隊を有して

いると言えるが、これらの人たちは皆ばらばらで、紂王と共通の考えや信念を持っているわけではない。一方私が国家を治めるに当たって補佐してくれる大臣は十人に過ぎないが、諸君を始めとする臣民と私の気持ちは紂王を倒すという目標でしっかりと心が結ばれている。よって、私は我が軍は必ず勝てると信じている。この度の戦いで諸君がそろって功績を立てることを心から望んでいる」

武王の話が終わった後、將軍たちは心を一つにして紂王を倒すことを改めて誓い合いました。

その後周軍と紂王の軍隊(商軍)は牧野^{ぼくや}の地で戦いを交えました。紂王は奴隷と兵士併せて十数万人を有していましたが、奴隷たちは元より紂王の為に力を尽くす気はなく、戦いが始まるとすぐに戦わずに周囲に散り、逃げてしまいました。その上、商軍の多くの兵士たちは周軍側に寝返ってしまいました。

そのようなありさまなので周軍は容易に商朝の都の朝歌を攻め落とすことができました。紂王は自軍の大多数がすでに居なくなってしまったのを知って、鹿台^{ろくだい}³⁾の地で焼身自殺をとげ、500年近く続いた商朝は終に滅びてしまいました。

〈注記〉

1)尚書^{しやうしょ}：四書五經の一つ『書経』の古名。

2)武王^{ぶおう}：周朝の創始者。商(殷)を滅ぼし、周を起こした。

〔1〕、〔2〕ウィキペディアより〕

3)鹿台^{ろくだい}：紂王が財宝を貯蔵したと言われる地。現在の河南省淇県にある。

【‘わんりい’の原稿を募集しています】

‘わんりい’は、2月と8月を除く毎月発行の当会の会報です。主として、会員と会の関係者の皆さんの原稿でまとめられています。海外旅行で体験された楽しい話、アジア各地の情報やアジア各地で見聞した面白い話などを気軽にお寄せ下さい。又‘わんりい’の活動についてのご希望やご意見及び‘わんりい’に掲載の記事などについても、簡単な感想をお寄せいただければと存じます。

日中文化交流市民サークル ‘わんりい’

【前号までのあらすじ】

今は昔、南宋の臨安市に劉貴という男が妻の王氏と妾の陳氏と3人で、貧しいながら仲良く住んでいました。ある日、妻の王氏の実家から商売の元手として、お金15貫を借りて帰った劉貴は妾の陳氏をからかって「お前を売った」と告げ、借りてきたお金を見せました。

劉貴の話を信じ困惑した妾の陳氏は、里へ帰って相談しようと家を出ましたが、その夜、賭博に負けたならず者が、劉貴の家に忍び込み、劉貴を殺してお金を盗んでゆきました。

家でそのような事件が起こったことをつゆ知らぬ妾の陳氏は、道中知り合った若い男と道連れになり歩いているところを、事件を知った近所のものに捕えられ、連れ戻されました。

大勢の人々に取り押さえられ、しっかり縛られた二姐の陳氏と若い男性は臨安府の役所へ突き出されました。近所の人々も証人になろうと一緒に役所に押しかけていきました。

府の長官は殺人事件が出たと聞いて、すぐ登庁して、関係者全てを部下に並べさせ尋問し始めました。

まずは王夫人の父親が、自分の娘が劉貴に嫁いてからずっと豊かな生活ができずにいるのを見かねて、開店資金として15貫のお金を貸与したが、陳氏が不良な男と示し合わせ、その金を奪うために婿を殺したと推量を交えて述べました。また、一緒に役所に来た隣人たちも王氏の父親に同調しました。

長官はそれを聞くとすぐ陳氏を呼んで

「きさまが奸夫としめしあわせて自分の亭主を殺し、お金を持って一緒に逃げようという物証、人証全部揃っている。もう申し開きの余地はない。どうだ、罪を認めるか」

と大きな声で訊きました。

陳姐は泣ながら

「私はこの家に妾として嫁ぎましたが、主人と王奥さんはいつも優しく私に接してくださいました。お金の余裕はありませんでしたが、三人の間では、不愉快

なことは一つもなかったのです。ただ先日、王奥さんの実家に行って一人帰ってきた主人が、帰るなり私を売りに出したといいました。私は売られるのが怖くて実家に帰って相談しようと思って家を出ました。途中たまたまこちらの若い男の方に出会って道連れにして頂こうと思ったのです。

お金のためだとか殺人などというそんな悪心を私が持つような事実は何にもありません。ですから今度のことは全くの濡れ衣です。長官様、よく調べてください。お願いします」

と固く自分の主張を述べました。

長官は今度は若い男性に向かって訊きました。男性は、商売のお金を受け取った帰り道で陳氏と知り合いになったばかりなので彼女の名前さえ分らないし、ましてや連れになった女性の夫が殺されたことも、なくなったお金のことなども一切自分には全く関わりのないことだと主張しました。

長官は髭を撫でながら

「お前の話を誰が本当と思うか。劉家が十五貫を失くし、貴様の袋にはちょうど十五貫がある。その上、殺された人間の女房のこの女に面識がないといいながら、見つけられるまでどうして一緒に、寂しいところを連れだって歩いていたのか。たまたまとお前は言うが、世の中にこんな偶然が折よくあるものか。明らかに見え透いた嘘としか言いようがないではないか」

と若い男性をじっと見つめて問詰めました。

しかし、若い男性は自分とは何も関係がないと固く言い続け、陳氏もそばから男性の言葉に間違いがないと繰り返しました。

しかし、王夫人と父親は、あまりにも突然の出来事に打ちのめされて、今は冷静にものを考えることが出来ません。殺人犯は間違いなく陳氏とこの若者だと思い込んでいました。

「嘘だ。この恥知らずの二人が言うことは全く嘘だ!」

と王夫人とその父親が興奮して叫びました。隣人達も皆二人に口を揃えました。

長官は目の前の状況を見て

「おい、お前たち、この恥知らず。本当の話を言わないと後悔するぞ!」

と脅しましたが、それでも二人は今までの主張を崩しません。業を煮やした長官は机を叩いて命令を下しました。

「このままでは本当のことを言わないようだ。拷問に掛けてみろ!」

下役に道具を運ばせ、陳氏と若い男性を半死半生まで板で叩いて責めつけさせました。

最初の内は、二人とも気絶するほどの痛みにも耐えて無実を言い続けましたが、結局、拷問に耐えきれずお金のため人を殺し一緒に逃げようとしたのだと認めました。一刻も早くこの裁判を終結したいと思った長官は、すぐ二人に首枷を嵌め、死刑囚牢獄に投げ込みました。

そして長官は、若い男性が所持していた十五貫を王氏に返し、案件に対する判決文を作成して朝廷に上奏しました。

その後、何日間か経て、聖旨が下されました。

「崔寧は人の妻と密通し、金を奪い、人を殺す。律に抛り、斬罪に処する。陳氏は奸夫と示し合わせて、夫を殺害して、女の道德を失い、大逆無道である。よって八つ裂の刑に処する」

二人は、牢獄から引き出され、人々の前で刑を執行され、不幸にも、責任感のない愚かな裁判官に裁かれ、むなしく命を失ってしまいました。

実は裁判官がよく考えれば、この事件に不自然なところがあることに気が付く筈でしょう。少なくとも、陳氏がお金を盗んだのでしたら、夫が死んだその夜、わざわざ隣の家で一晩泊まるなどせず、素早く何処かへ逃げてしまう筈でしょう。しかし、いい加減な裁判官はそれさえも見落として、罪のない人たちを殺して、本当の犯人を逃がしてしまったのです。

さて、事件がすべて終了し、王夫人の父親は娘に再婚を勧めました。しかし、王夫人は夫を忘れることができない上、古いしきたりで、身内がなくなったら、三年間の喪に服す習慣もありますので、せめて一周忌を済ますまでは待つてほしいと父親に告げ、喪服姿で日々を送り始めました。

(続く)

京劇界の人間国宝・王金璐氏のこと

会が、中国京劇界の人間国宝ともいべき王金璐氏を日本に招聘し、町田市民ホールで京劇鑑賞会を開催、氏のはまり役である三国志・趙雲が大活躍の「長坂坡」を鑑賞したのは、1995年5月のことで、早20年近く前のことになる。日本で、氏がその素晴らしい演技を披露したのはこの一回限りある。

その公演を、当時、町田周辺を取材放映していた小田急ケーブルテレビが複数の大型カメラで録画し、1ヶ月に亘って放映した。このビデオを昨年度のサークル祭で上映し、王金璐氏の入魂の演技の凄さに引き込まれた。同時にこの記録の貴重さをあらためて感じ、小田急ケーブルテレビには深く謝意を表したい。

招いたいきさつは置いて王金璐氏について簡単に紹介したい。

王金璐氏は1920年に北京で生まれ、10代で京劇俳優を志し、今に名を残す京劇俳優・馬連良と李洪春らに師事、武生（京劇二枚目役どころ）と関羽の芝居を学んだ。懸命な努力とすぐれた理解力で、各界から“神童”“天才少年俳優”の賞賛を浴びた。以来、いろいろなコンクールで一位を獲得、1956年には、国際・白ロシア最高栄誉賞を授与された。

多くの京劇人が文化大革命で命を失ったが、王金璐氏はその厳しい時代を乗り越え、再生中国が、京劇という自国の伝統芸術の保護と育成を目的に国立中国戯曲学院を立ち上げた折に第一代目の教授として後進の指導に当り、多数の門下生たちが、今、京劇の担い手として国立京劇院スターとして活躍している。

今年度の麻生サークル祭の上映会では、中国戯曲学院の一期生として、王金璐氏から直接、武生の演技指導をうけた、元中国京劇院の張紹成氏が解説する。

是非、この機会に、「孫悟空」ではない京劇の面白さ素晴らしさを知ってもらいたいと願っている。(田井)

過日、「挑戦! 朗読中国語」という2005年に出版された中国語講座のテキストをめぐっている、「揚州遊記」という課に揚州市を紹介した文章が目に入った。今回はまだ一度も訪れたことがない、2500年の歴史を誇る「揚州市」について書き綴ってみたい。

江蘇省の省都・南京市の北東約70kmのところに位置する同市は、以前井上靖の小説「天平の薨」を読んだとき、いつかその地をこの目で見たいと思っていた都市である。改めて読み直すと、鑑真(688年～763年)の生きた時代の揚州市について、〈揚州は長安、洛陽の二京に次ぐ大都會でここには大都督府が置かれ、淮南道採訪使^{わいなんどうさいほうし}¹⁾が常駐していた〉と書かれている。日本に置き換えれば、東京、大阪に次ぐ名古屋のような位置付けであったのであろう。

ではなぜ二京に次ぐ大都市となったのか。それは隋代(589年～618年)の第2代皇帝、つまり暴君で有名な「煬帝」^{ようだい}²⁾が権力に物を言わせ、北京から杭州までの大運河を掘削させたことによるであろう。

次の唐の時代(618年～907年)に入り、この運河により江南の豊かな物資が長安(西安)や洛陽に直接運べるようになったため、一気に交通の要衝になり人と物が集まり殷賑を極める街に変貌した。つまり二京に次ぐ大都市と言われるようになって行ったのである。また大運河の建設は、長い間分裂状態であった中国を統一するため偉大な貢献をした。東



現在も中国の大動脈として利用されている「京杭大運河」
中国の北京から杭州までを結ぶ、総延長 2500 キロメートルに及ぶ大運河である。(写真は、^{ヤフー}全て中国版雅虎より)

流する大河で分断された国土をまとめやすくしたのだ。唐朝は紆余曲折はありながらも300年続いたのもこの運河のおかげと言っても過言ではないのではない。

一方で、隋はこのような大規模工事への人民の強制的な労役と三度に渡る高句麗への遠征(いずれも失敗に終わった)が人民の反発を招き、各地で反乱が起きてわずか30年で滅ぶことになった。政権末期に反乱を避けるため煬帝は、首都の長安から13歳のわが子を連れこの揚州に逃げてきた。だが618年、故郷長安への帰還を望む近衛兵によって殺害されるに至った。



実は昨年(2013年)3月、揚州市内の工事現場で小さな古代墳墓が発見された。その後の調査で同年11月にこの遺跡が煬帝の陵墓であることが明らかになった。10年くらい前に中国で購入した地図には煬帝の陵墓が記載されているのでおかしいと思って調べると、同市にはすでに清朝時代に認定された陵墓があり観光地となっているが、今回の発掘により本当の陵墓が明確になったと報道されている。では今までの陵墓はいったい誰のものであろうか。小さな陵墓は煬帝の最期を考える時、さもありなんと思う。いつの時代も独裁者の末路はこのようなものである。

ここで現在の揚州市はどのような都市になっているのかを見てみよう。7世紀から8世紀頃は前述の通り中国第3の大都市であった。今はどこにでもある中堅クラスの都市である。

2009年の資料で少し古いが、人口は460万人であり、そのうち市区の、つまり中心部の人口は118万人である。中国はどの都市も市域が広いのでこのようになる。市の面積は6,658km²もあり茨城県の6,095km²を上回る広さである。人口だけで見れば、日本に当てはめると東京に次いで2番目の大都会になる。

揚州市は本来、「揚州」と書かれ漢代(BC206年～AD220年)に置かれた13州のひとつであった。それが唐代に表記を「揚州」に改め、現在に至っている。隋の皇帝の姓は「楊」(初代皇帝の文帝は楊堅、2代皇帝の煬帝は楊広)なので唐がこの字を避けたのかもしれない、と勝手に思ったりしたが如何であろうか。

市の歌は、「茉莉花」である。この歌は清朝では江蘇省あたりで歌われていたらしいが、その後広く流布し今では中国全土で愛唱されている歌である。2月2日のわんりいの新年会でみんなで歌ったのを思い出す。

ネットで揚州市の姉妹都市を見ると、日本においては奈良市、厚木市、唐津市、入広瀬村(現在は町村合併で魚沼市)と四つの自治体が載っている。冒頭に記した中国語のテキストには、「揚州市は古風で奥ゆかしい都である」と書かれている。さすれば奈

良市はぴったりである。奈良市は西安市とも姉妹都市である。一般的にはこのような都市同士が縁組するのだ。

ではなぜ厚木市と提携したのであろう。厚木市には申し訳ないがどうみても古風で奥ゆかしい街には見えない。そこで厚木市役所に電話して聞いてみた。担当者から、「厚木市と揚州市は以前から小学生のサッカーの交流が続いてきたのが縁で1984年に姉妹都市となりました。今年がちょうど30年となります。」と教えていただいた。日中関係が冷え込んでいる中でこうした取組一特に小学生たちがお互いの国を理解しあっていることはとても大切なことである。厚木市に敬意を表したい。

次に改めて揚州市の観光めぐりをしよう。揚州市と言えば大運河と鑑真が脳裏にひらめくがまず大運河からはじめよう。

歴史の教科書などには大運河は煬帝が造り上げた簡単に書いてあったように記憶するが、長い年月をかけて完成したものである。大運河の掘削は紀元前486年に、臥薪嘗胆の故事で有名な呉王・夫差が揚州市の北に邗城を築き、邗溝^{かんこう}を掘削したのが始まりで長江と淮河(約100km)を結びつけた。

その後、隋代になってすでにあった邗溝など4つの水路を結ぶ工事を初代皇帝の文帝が始めたのを煬帝が引き継ぎ完成させたもので、全長2500kmという気の遠くなる長さである。北海道から九州までほぼすっぽり入る長さであると言えば分り易いだろう。そして北京から杭州に至るあいだに海河(天津市)、黄河(山東省)、淮河(江蘇省)、長江(江蘇省)、銭塘江(浙江省)の大河川の下流域と交差する。完成は610年で以来1400年余り中国の水運の要を果たしている。完成後、煬帝はデモンストレーションとして運河に煌びやかな龍船を浮かべ行幸したりしたため、自分たちの苦役は皇帝の遊興のためだったのかと庶民の反感を買ったと言われている。

大運河は穀倉地帯の江南から食糧を北へ輸送する大動脈であったばかりでなく、南北の文化交流に寄与するとともに、歴代の皇帝が南下するときの水路として活用されその終着点は揚州であることが多かった。

そのため揚州市内の多くの建築物は皇帝との関わりを持つものが多い。例えば揚州市の南にある「高^{こうみんじ}旻寺」は皇帝の行宮でもあった。この寺は、中国で四大仏教(禪宗)寺院として有名だそう。端正で威厳があり、奥ゆかしい趣の建物、湖、湖心亭、いくつもの中庭などから構成されている、とテキストに書かれている。

さらに言えば、高旻寺の近くを長江がゆったりと流れている。大運河も北から長江にぶつかるように流れ込んでいる。このあたりに当時「揚^{ようしん}子津」という小さな港町があった。この町は水運の発展に伴い交通、交易の要衝に成長して行った。そしていつしか長江下流域、特に揚子津近辺を「揚子江」と呼ぶようになり、ついには長江の別名までになったのである。大運河は各時代で改修を重ね、今日の「京杭大^{けいこう}運河」となった。

次は鑑真について書こうかと思ったが長くなりそうなので、「朱自清 Zhū Zìqīng」(1898年～1948年)について書くことにする。

揚州市の地図を眺めていたら「朱自清故居」と言うのがあった。揚州市の生まれかと思ったら、同じ江蘇省ではあるが連雲港市・東海県の出身であった。いつの時代にこの揚州市に住んでいたのかは分からない。彼は近代中国の著名な詩人であり、散文作家である。知らない人が多いと思うが、私には大げさに言えば忘れられない人である。

実は大連勤務の時、中国語教室に通ったのだが先生(大連外国語学院の学生)が、「今日は中国人が書いた名文について勉強しましょう。少し難解な文章ですが、何回かに分けて少しづつ読んでいきましょう。必ずいい思い出になるでしょう」と言って、朱自清の書いた「荷塘月色」(荷塘とはハス池のこと)という散文のコピーを取り出した。

朱自清と言う人はこの時はじめて知ったが、初めて見る彼の文章は確かに私の手に負えない文章であった。しかし毎回5～6行ずつ丁寧に教えてもらううちに私でも素晴らしい文章だということが曲りなりにでも理解できた。日常会話ばかり勉強していたが、この名文に触れさせ大連でのいい思い出を作っ

てくれた先生にとっても感謝している。

先日ある雑誌に杏林大学の千野准教授の書かれた本作品の解説記事が載っていたのを見つけたので、その一部を抜粋し、下記に紹介しておきたい。

「朱自清の作品は名文が多いことで知られていますが、その中でも〈荷塘月色〉は一篇の詩を思わせるような美しい文章で大変に有名です。中国の高校の教科書にも収録されており、〈背影〉と並んで人口に膾炙されています。本作品は作者が清華大学で教鞭を執っていた時に書かれた散文です。当時作者は清華園西院に住んでいましたが、その近隣には蓮池があり、この美しさや静けさに触発されて本作品を書いたと言われています」

彼は当初詩人としてスタートしたが、代表作である「背影」を30歳(1928年)の時に発表し、一躍散文作家としての地位を確立した。ただ、終戦後すぐの1948年に50歳の若さで早世したのは大変惜まれることである。荷塘月色の文章の一部を紹介しつつ、大連での勉強と朱自清に思いを馳せたい。

qǔqūzhézhédehétángshàngmian, míwàng de shì tiántián de
〈曲曲折折的荷塘上面、弥望的是田田的
yè zi. yè zi chū shuǐ hěn gāo, xiàng tíng tíng de wǔ nǚ de qún.
叶子。叶子出水很高、像亭亭的舞女的裙。
céngcéngdeyèzizhōngjiān, língxīngdìdiǎnzhuìzhexiēbáihuā,
层层的叶子中间、零星地点缀着些白花、
yǒuniǎonuòdì kāizhe, xiū sè de dǎ zheduǒr de, hèngrú
有袅娜地开着、羞涩的打着朵儿的、正如
yī lì lì demíngzhū, yòurúbitiānde xīngxīng, yòurúgāng
一粒粒的明珠、又如碧天的星星、又如刚
chū yù de měi rén
出浴的美人。 〉

(つづく)

〔注記〕

- 1) 唐の玄宗皇帝の時代、全国を十の道に分けて淮南道採訪使という官を置いた。道内を巡視して官吏の成績を調べ、三年に一度上奏する役目を持つ。
- 2) 煬帝の名は、唐が彼の死後、勝手につけた諡号(おくり名のこと)。「煬」の字の意味は、天に逆らい民をしいたげる意。暴君で有名であるが、政権を取った唐が作り上げた評価でさほどの暴君ではなかったとの見方がある。大運河は高句麗への遠征のためとも言われている。

中国を初めて訪ねたのが、なぜか雲南省で、麗江、大理を巡る観光旅行だった。その中に農家訪問があり、稲作地帯の少数民族の暮らしぶりに興味が湧いた。日本の半世紀前の山村とそっくりで、郷愁にかられた。

中国には55の少数民族が居り、雲南省には、その中の25の民族が独自の文化を守りながら暮らしていることも知った。新宿の孔子学院で、20回ほどの関連講習を受講したり、日本雲南聯誼協会に入会して、学習を深めた。

藍染の桶深々と春を待つ

長老の声駆けのぼる冬棚田

白族の老女が絞り染めの細かい作業をしていたり、苗族の農夫が急斜面の棚田で働く姿には、尊ささえ感じた。

布依族の媪商ふ冬林檎

村で週一回開かれる市には、それぞれの民族衣装で着飾って集まってくる。棹秤での計量や、生きたままの鶏を抱えていたりと賑やかである。騒然とした中で、おもむろに携帯電話を取り出すというアンバランスな光景も見られる。貧しさの中でも旺盛な生活力が感じられる。

怒江が大きく湾曲し南下する流れに不思議さを感じ、さらに、長江第一湾の壮大さには驚かされた。ここでV字型に流れを変え、北東に伸び、上海への6300キロの大河となっていくのだ。

枯れきって大河の行方見失ふ

少数民族の教育支援の活動をしている協会の会員として、小学校の開校式や、女子高校の春蕾学級(少数民族の奨学生のクラス)の卒業式に参列したのを含めて、この10年間に8回も雲南省を訪れた。記録した写真の個展は2回開いたが、海外吟は難しい。

白壁に秋の日照らす東巴文字

秋灯下少女一瞬の憂ひ顔

納西族の老女の背に星流る

天高し行手はるか茶馬古道

雲南の南端から遥かチベットまで、茶を運ぶ道を訪ねたいと希っていたが、足弱の今となっては叶えられない。だが昨年、馬帮たちの足跡を求めて、喜州・劍川などの拠点を訪ねた。今でも、馬やラバが荷を積んで吊橋を渡り、崖道を歩む姿が見られた。

ミャンマー国境近くの騰冲には「国殤墓園」がある。日本軍と戦って戦死した将兵の墓が山の斜面に林立している。ここは、先の戦争の戦場だったのだ。

孫文の書、蒋介石の遺影、青天白日旗が掲げられている。入口の隅に、日本兵四人を祀った「倭塚」が李根源書としてあった。

片すみに倭塚がひとつ秋の風

雲南の少数民族を訪ねて俳句を詠む

奥脇弘久



一瞬憂い顔を見せる白族の少女



絞り染めの下縫いをする白族の老女



背中に北斗七星を背負う納西族の女性

詩人^{いん せ りん}尹世霖の童詩の世界③

尹世霖の童詩と出会う 金子總子

尹世霖さんは子どもたちの身近にあるものを取り上げて子どもたちの心を育てています。例えば以下の3編を味わってみてください。暗唱したり、大きな声で朗読してみてください。いかにも軽やかで、大きな空に向かって心が開くように感じるでしょう。

雨

chūn tiān de yǔ shā shā shā
春天的雨 沙沙沙

zhǒng zǐ fā le yá
种子发了芽、

xià tiān de yǔ huā huā huā
夏天的雨 哗哗哗

wéi bǎo le dà zhuāng jià
喂饱了大庄稼、

qiū tiān de yǔ shuā shuā shuā
秋天的雨 刷刷刷

jiāo chū yī fú huà
浇出一幅画；

fēng shōu de tián yě jīn càn càn
丰收的田野金灿灿、

liáng dùn xiàng nà pàng wá wa
粮囤像那胖娃娃。

chūn yǔ xià yǔ hé qiū yǔ yō
春雨、夏雨和秋雨哟、

dōng tiān biàn chéng le xiǎo xuě huā
冬天变成了小雪花。

雨

春の雨は サーサーサー

種を芽ぶかせる

夏の雨は ザーザーザー

畠の作物は 大満足

秋の雨は シト シト シト

しっとり濡れた 絵を描く

豊かに稔った 田や畠は 黄金色に輝いて

穀物倉は はちきれそう

まるまる太った赤ちゃんみたい

春・夏 そして 秋に 降る雨が

エーッ！ 冬には 雪になっちゃうの。



风

fēng a nǐ zhēn qí guài
风啊、你真奇怪；

yǒu rén shuō nǐ hǎo yǒu rén shuō nǐ huài
有人说你好、有人说你坏。

rú guǒ wǒ shì fēng
如果我是风、

chūn tiān sòng fēng zhēng qù zhǎo yún cǎi
春天、送风筝去找云彩；

xià tiān gěi rén men sòng qù liáng kuài
夏天、给人们送去凉快；

qiū tiān bǎ gǔ suǐ rǎn de dé dé jīn huáng
秋天、把谷穗染得金黄；

lǒng tiān dào shān gōu lǐ cáng qǐ lái
冬天、到山沟里藏起来。

hēi xiàng wǒ zhè yàng de fēng ya
嘿！像我这样的风呀、

zhǐ yǒu rén shuō hǎo méi yǒu rén shuō huài
只有人说好、没有人说坏。

風さん

ねえ 風さん

あなたは 本当におかしいわ

ある人は あなたを 好き といい

ある人は あなたを 嫌い というの

もしも わたしが風ならば

春には

風をとばして あかね雲を 訪ね

夏には

人々に 涼しさを 送り

秋には

穀物を 黄金色に 染め上げ

冬には

山あいにかくれている

ネエ！

わたしが このような風ならば

風は好きと いう人だけ

風は嫌いという人は だれもいない

yún
云

lán zhàn zhàn de tiān shàng fēi zhe bái yún
蓝湛湛的天上飞着白云、

bái yún ya jiū zhù le hái zǐ de xīn
白云呀揪住了孩子的心

tā biàn chéng le yī pán lián huā
它变成了一盘莲花

hái zǐ xiǎng bā huā r xiàn gěi mǔ qīn
孩子想把花儿献给母亲…

tā yòu biàn chéng le yī pī dà mǎ
它又变成了一匹大马、

hái zǐ xiǎng qí shàng mǎ ér zhèng fú xīng chén
孩子想骑上马儿征服星辰。

hē lán zhàn zhàn de tiān shàng fēi zhe bái yún
呵、蓝湛湛的天上飞着白云、

bái yún jiū zhù le yī kē kē tiān zhēn de xīn
白云揪住了一颗颗天真的心……

白雲

青く澄みきった空に 白雲が とんでいる

白雲はネ 子どもの心を しっかりと ひきよせる

それは 一輪の蓮の花になった

子どもは 花を お母さんに 捧げたいと 思うのだ

それは また 一匹の 大きな馬になった

子どもは 馬に騎って

星座を 征服したい と思うのだ

ああ 青く澄みきった空に 白雲が とんでいる

白雲は ひとつひとつの 無邪気な心を

しっかりとひきよせる……



四姑娘山のミンミン(明平銘)さん、結婚しました

大川健三さんの案内で 'わんりい' の会員たちが2006年に四姑娘山を案内してもらいました。そのとき、四姑娘山登山基地の日隆で宿泊した日月山荘の長男で、登山ガイドを務めてくれたミンミン(明平銘)さんが今年5月24日に結婚しました。2008年の四川大地震後に再建した日月山荘前での、それぞれの両親との記念写真と、披露宴の写真を大川さんがお送りくださいました。花嫁は漢族の陳媛媛さんで、ミンミンさんが日本で留学していた時の同窓生だそうです。披露宴の写真では、中央左側で民族衣装を着て酒瓶を持っているのが花嫁さんです。(中央右側の笑顔の女性は花嫁の介添え役で宴席の客にお酒を注いで回ります)。

「披露宴は日月山荘の駐車場にテントを張った300人位が座れる会場で、1時間半位ずつ交代で出席者が食事します。振る舞われた料理は、当地にしては大変美味しく豪華で、皆感心していました。合計2000人近くがお祝いに来たそうで、ミンミンのお父さんのお付合いの広さに驚きです」との文を大川さんから頂きました。

ミンミンさん、おめでとう！ 末永くお幸せに。



台北「故宮博物院」に見る古代と現代中国

陽光新聞社・顧問 塩澤宏宣

「台北国立故宮博物院一神品至宝」展が6月24日から東京国立博物館で開催されるという記事を見ました。「故宮」という文字を見ると、私の感情は反射的に古代の中国に迷い込みます。

私が初めて台湾に行ったのはいつだったか…。テレビ番組取材の立会いでした。台北の繁華街にはオートバイが溢れ、家族が4～5人一緒に乗っている姿に驚いたことを思い出します。同行した仲間と「故宮」を見学しました。展示されている書画・器物にタダタダ圧倒され後日、友だちに「故宮見物」の話をする際、何を見たのか全く思い出すことができませんでした。

次の台湾行きは大分間がありました。街を走る乗り物は自動車に変わり、駐車場は整然としていました。有名な台湾プラスチック社が所有する長庚紀念病院(創業者の王永慶氏の母のために創立)との商談でした。紹介者は何既明さん。李登輝氏の友人で、司馬遼太郎の「街道を行く(台湾篇)」にも登場する方で、陳舜臣氏のいところでもあるとのことでした。

その何さんと飲んでいて折、「君は軍歌をいくつ知っているか」と聞かれましたので、「2～3曲ぐらい」と答えました。すると彼は「私は40曲知っている!」と。これにはビックリ。「故宮」のことを話すと、「あれは蒋介石が“いいものだけを盗んできた”のだ」とのこと。京都大学医学部出身のインテリで、会話は終始「見事な日本語」でした。なおその時の故宮での思い出は有名な「翠玉白菜」でした。今回の展示会でも期間限定で鑑賞できます。

故宮博物院が収蔵する文物は、中国歴代王朝の歴史といわれます。現在それらの財宝は台湾と北京に分散されており、先の何さんの言う通り台北

には「いいモノ」があります。ここで私が「いいモノ」という意味は、あくまでも私の価値観(私感)です。北京の故宮博物院へは1回しか行っていませんが、台北の時の感激はありませんでした。展示方法が違うというか、中国人の自慢したいところが私の趣味に合わないのかもしれません。

歴代皇帝は、古代の青銅器から玉器・書画・陶磁器・金工・漆工・古書籍などを引き継いできました。その収集に一際熱心であった皇帝が二人います。北宋の徽宗と清の乾隆帝です。

徽宗は「風流天子」と呼ばれ、芸術にうつつを抜かして国を滅ぼしたと言われていますが、その功績は素晴らしいものです。自らの書体を創出し「瘦金体」として多くの書を残しています。唐の時代から宮廷にあった絵画制作機構(画院)を本格的に設置し、宮廷画家の育成にも努めました。

清朝六代の乾隆帝は清朝全盛期の皇帝です。全国の過去の書物を一つのシリーズにしたという壮大な事業を成し遂げました。古典3400種を筆写し「経・史・子・集」に分類、装丁も色分けして1セット3万6000冊の「四庫」を完成しました。その他では南北の宋や元、明の文人の作品を網羅的に蒐集し、現代に引き継いでいます。

故宮博物院の保存品は歴代皇帝が「お抱え作家」に作らせたものですから、作者やその謂れが確かなものです。大切に保管されていましたが、傷一つない完璧な作品ばかりです。お抱えの作家はおそらく代々家業を継いでその「秘伝」に基づいて制作したのではないかと思います。いわゆる庶民とは違う立場にいたと思います。その意味では宮廷文化・芸術です。それぞれの時代の庶民文化をこれらの作品から推察することはできないでしょう。素晴らしい作品群を前にして「中国の庶民文化」はどんなものだったのか?

今日、偉大なる中国の皇帝文化の一端は、台北と北京の故宮博物院に納まっていますが、こうなるまでには中国中を移動するという「風雪の80年」がありました。

1911年、1644年から267年間続いた清朝が辛亥革命によって幕引きをしました。しかし、そ

の後12年間にわたって最後の皇帝宣統帝は「財宝」とともに紫禁城に住み続けていました。その財宝は約1年掛けて整理し、新設することが決まった故宮博物院で公開することになりました。整理作業はその後も続き一応終了したのは7年後の1930年だそうです。それだけで膨大なコレクションだったことがわかります。

収蔵物の一般公開は始まりましたが、その直後の1931年満州事変が勃発、上海事変や満州国建国などの混乱に際して「故宮財宝」の中国大移動が始まります。この移動劇は述べ14年間続き、その移動距離は1万キロに及んだといわれます。

まず「南遷」北京から上海に送る作戦です。以下に「台北国立故宮博物院を究める」板倉聖哲・伊藤郁太郎著(新潮社)より抜粋します。



上海のフランスとイギリスの租界へ5回に亘って送られた。述べ1万9557箱という膨大な量を運ぶ。しかし上海は海に近く湿気が多いということで南京に倉庫を作り移転。1937年7月7日蘆溝橋事件が勃発すると西に避難する。その旅は長沙、貴陽、安順、更に巴県・重慶へ。

はるか西の四川省を目指した。日本軍に追われながら1万6735箱の逃避行を終了した。対日戦終了後は、国民党軍と人民解放軍の内戦勃発。内戦3年目の1948年11月7日、徐州南部で両軍が激突し、人民解放軍が勝利する。国民党軍は直ちに秘密会議で優品600箱を台湾へ移送することを決定した。

重慶から南京へは軍用列車で運ばれた。南京から基隆(台湾)までは3陣に分け、海軍輸送船や商船をチャーターして運んだ。その数2972箱と北京から南遷した時のわずか2割に過ぎないが、貴重なものばかりだ。そして、1965年11月12日に台北市外双溪に現在の故宮博物院がオープンし、困難を極めた長い旅が終わった。



汕頭の刺繍は日本でも有名です。香港からのおみやげで人気があるようです。ベルギーやオランダ、スイスなどのヨーロッパの刺繍とは味わいが異なり、東洋の香りが好きです。私の知識では、そ

の東洋的な香りを完成させた時代が宋(北宋・南宋)朝、明朝、清朝ではないかということです。水墨画・山水画・花鳥画といった中国絵画の原点は北宋時代にあると思いますが、その時代の代表作がほとんど台北故宮にあるそうです。世界的に有名な青磁も北宋です。汝窯の青磁は現存する作品は70数点しかないそうです。そのうち21点が台北故宮にあり、今回「輪花碗」が出展予定です。

「汝窯の青磁」は南宋の張俊が時の皇帝高宗に贈り物をした際の目録に初めてその名が出てきます。また「汝窯は宮中の禁焼(御用瓷)であり、貴重な瑤瑤を粉にして釉薬に混ぜ込んである」という記述があることから、当時から「皇室御用達」だったのでしょう。日本では「景德鎮窯」が有名ですが、ここが主流になるのは明代からのようです。

私は現代の中国の人々に、声を大にして言いたいと思います。古代中国の人々が残したこれらの偉大な宝物を残してくれたのに、なぜ「模造品ばかり作っているのか」と。ある調査によると現代の若者は誇りに思うことの一番に「4大発明」を挙げているとのこと。確かに「紙・印刷技術・火薬・羅針盤」という発明や、故宮博物院に残された「財宝」の数々は、世界に誇るべきものです。古代中国人が成し得た物事を現代中国人ができないはずはありません。

私は30余年に亘ってマーケティングを専門にしてきました。マーケティングは専門用語ですが、最近あちこちで使われています。要約すれば「製品を商品にする」戦略・戦術をいいます。企業の都合でつくる「製品」ではなく、消費者が欲している「商品(売れる、もしくは、買いたい)」ということですが…。

今流行り言葉でいえば「ブランド化」もその一部です。「汕頭刺繍」も「景德鎮窯」も有力なブランドです。外国へ出かけて「売れそうなものを探し」「それを真似する」ではご先祖様に申し訳ないと思います。現存する「Made in China」の中にもいいモノがあると信じています。そうした「モノを商品化」すれば世界に誇れる「Made in China」が誕生します。以上が故宮博物院の品々を思い起こしての雑感です。

台湾に行ったわけは、ちょくちょく仕事で来日している台湾・台中市の友人「信ちゃん」から遊びにいと、事あるごとに誘いを受けていたからだ。信ちゃんと日本人みたいな呼び方だが、彼の奥さんは日本語教師で自分の夫を呼ぶ時は名前の一字をとって「信ちゃん」と、日本風に呼んでいる。今回の台中訪問は2014年4月2日から5日までだった。最初の2日間は信ちゃんに高山凍頂茶の産地や、パイナップルケーキの故郷を案内してもらい、夜は客家料理や郷土食をご馳走になった。旅行前に簡単な登山も希望しておいたら、4月4日に山歩きに連れて行ってもらった。

朝の8時過ぎに白い小型の日産車で奥さんを同乗して迎えに来てもらう。前の信ちゃんのクルマは安全性の面から(ぶつけられても壊れにくいらしい)黒のベンツを運転していたが、今では仕事で市中を回るときは駐車場への出し入れや路上駐車のためから、小型車の方がよいということであった。

信ちゃんは若い頃はオートバイ狂、兵役の時はアメリカ製の戦車を操縦していたそうで、運転はうまい。落ち着いたハンドル捌きで、同乗しても安心できる。

一応山歩きの支度をしたが、どこへ連れて行かれるかわからず、地名などは後日調べてわかったことである。助手席に座ってはいたが、台中の市街をどちらの方向に走っているかわからない。信ちゃんの日本語は細かなことはだめで、私の中国語はもっとだめだ。だ

から込み入った内容は、奥さんの「麗ちゃん」が後ろの席から通訳というか、かみ砕いて説明してもらう。

小一時間ほど

進むと、風景は丘陵と緑が多くなった。ほどなく小公園に付随する駐車場に乗り付けた。降りてみるとすぐそばにトイレと「台中市大坑登山歩道風景区」の案内地図があり、付近一帯は「高尾山」のような登山道が整備された自然公園となっている。

トイレ外側の壁面には「小黑蚊」に注意をするように

との掲示板があった。円盤の中

に指型の針で「危害指数」を指

し示すようになっている。現

在の指数は「50」の位置だっ

たが、更新月日は去年の11月

13日のままで、現在のことは解

らない。後でネット検索すると小

粒ながら猛烈な痒みが出る恐ろし

い蚊だということが解った。しか

し今回は蚊の発生時期ではないらし

く、見ることもなかった。

今日歩く道は、「頭嵯山二号登山歩道」といい、標高差500mくらいの登山

道である。この道の特徴は丸太の階段が続く急登路だと後から解った。路端で野菜を売っているオバサンの前を通るとすぐに登山道の入り口になる。しばらく舗装した小道を歩いてから、山道になった。勾配がきつくなると、周囲は小ぶりの照葉樹の林であった。

なおも進むと梯子とも階段ともいえる丸太で組み上げた、長大な「登山栈道」が現れた。行く末は天国へ続くかと思うほど高みへ続いている。横板は直径



見上げる急勾配。階段は途切れることなく続く



小黑蚊注意の掲示板



憩いのひととき。食べ物を持ち寄ってくつろぐ。



くだりもなかなか壮観だ、降りていく信ちゃん。

10cmくらいの堅い丸太で、これを縦杭に渡した長い棧にボルトで地面から浮かして固定してあった。

丸太の階段では歩行が不安定である。だから両手で掴む太い綱が左右の手摺りに架けてあった。これをたぐって歩けば安定する。このような丸太の階段は日本にもある。けれども尾根から頂上まで地面に降りることなく続いているのは見たことがない。登山道管理者は試行錯誤の末、階段式で覆ってしまうのがよいと決めたのだろう。この方式の利点は登山道が荒れない、植生の保護になる、道迷いがいいなどか。ただし雨が降ると丸太の階段は滑るので危険だ。

登り始める。丸太の階段は見た目より登りやすかった。台中では人気の場所なので、これから登る人、降りてくる人が時々行き交う。

日本の山道のように登り優先というわけではなく、みたところ自分優先だ。道を譲らなくもどうにか擦れ違うことができるので、お互いに背中をこすり合わせて行き違っていた。

信ちゃんの奥さんも途中まで一緒に登ってきたが、山登りは得意分野ではないらしく、ちょっとした小ピ

ークで「最高距離更新」といって、私と信ちゃんが戻るまで休んで待つことになった。

私と信ちゃんはなおも登り続ける。信ちゃんは日本向けの電子部品の工場を経営したことがあった。その工場時代には社員や、同業経営者らと親睦と運動のため、毎週のようにこの「二号登山歩道」を登ったという。だからこの道はすでに50回以上は登ったといった。

信ちゃんが言うには「休まずに登るのがコツ」だそう。で、休み無しで歩き、1時間ちょっとで尾根上に出た。展望を期待したが、下界は霞んではっきりしなかった。

山頂の尾根は、横長に平らで右に曲がれば「頭料山」^{tou ko}が近い。反対側の谷からは細い車道が伸びていて、小型車なら入れるようだ。オートバイで荷揚げした飲み物屋台が店開きしていた。すぐそばで名前を知らない山菜を採っているオバサンがいた。炒めるとおいしいと言った。断るまでもないがすべて信ちゃんの翻訳である。小休止の後「頭料山」^{tou ko}へ向かった。あまり上下がないほとんど水平歩きだ。11時20分頃頭料山(859m)に着いた。展望に変化は無く、すぐに引き返す。

尾根上の道に面してあづま屋や、休息所があり、「獅子亭」とか、「黒松亭」などと優雅な名の看板があった。その中では老若男女の登山者たちが休憩して、至福の時を楽しんでいた。茶器を担ぎ上げて茶芸を楽しんでいる人もいた。信ちゃんと私もあづま屋のベンチで休んだ。私が日本人と解ると片言の日本語で「コンニチワ」などと話しかける人もいた。

下り始めると、景色も見たいが、丸太の下りで、足下から視線を離せない。途中で待っていた信ちゃんの奥さんと一緒になると、難行のような下山は思ったより早く、登山口に戻ってしまった。

そろそろ昼近く、小腹が空いてきたので近所の名物「東東芋圓」という店の山芋の入ったアンミツのようなもの「呷冰冰」をご馳走になった。トッピングを好みで指定できる。安くてうまい。

台中滞在の一コマでした。



「呷冰冰」、上にあるのが芋団子



6月6日から8日まで、東京で平成17年度JETプログラム^注再契約予定者研修会に参加しました。

一人で東京に行くのは今回が初めてなので、出発する前に東京の交通機関がうまく利用できるかとすごく心配していました。事前にみなさんに教えてもらい、東京のガイドブックを貸してもらいました。最初東京駅ではせかせか歩いている乗客に飲み込まれて、ちょっと焦りました。マップを見て、駅員に確認したので東京の移動は順調でした。

初日の研修では分科会がありました。私が選んで参加した分科会は「これだけは知っておきたい日本流ビジネスマナー研修 さすがと言われるマ

ナー研修」と「分かりやすい話し方と聞き方研修」の二つでした。この研修会では、指導の先生が日本の会釈、敬礼、最敬礼など、挨拶する時のお辞儀の角度、目線、手の置き方や名刺の出し方、受け方などを指導の上で実際にも練習しました。これはごく普通の礼儀作法ですが、今までは必ずしも正確ではなかったです。正しい礼儀は相手に良い印象を残されるでしょう。

最も有益なのは2日目の日中翻訳・通訳の研修でした。中国人JET参加者グループでは20人ぐらいの少人数だったのでいつもの研修と違ってよく練習できました。先生が前もって用意したNHK放送や北京放送のテープを聞かせ、その内容を一人ずつに訳させました。けっこう難しかったです。大体の意味は聞き取れるけど、内容を即座に覚えて、正しく通訳するのはそう容易なことではありません。こんなに難しいとは思いませんでした。学生時代に戻ったような気がしました。

このような研修を通じて自分の日本語のレベルが改めて分かりました。指導の先生達はテレビの同時通訳とかも担当し、その高いレベルには敬服します。こ

こで教わった速記の方法や声を出して文章を読むなどの経験を活用し、より良い通訳を目指して頑張りたいと思います。

研修の余暇、他の交流員と交流ができるのはとても有益なことでした。朝食の時、隣に座っていたのは秋田県に來ているロシアの交流員でした。折角の機会なのでロシアについていろいろ聞きました。学生時代にロシアの作家ゴーリキー(高爾基)の作品を勉強しました。それについて話したいけれども、当時、私は中国語の名前しか知らなかったので、なかなか通じませんでした。それで、身振り手振りで懸命に話したら、やっと通じて嬉しくなりました。

三日間の研修は短期間でしたが、なかなか得がたい機会でした。研修会で身に付けた知識や学習法などは、今後の国際交流に大いに活用したいと思います。

ちなみに、中国語講座もいよいよ開講します。前回の参加者も初心者も是非ご参加ください。お待ちしております。

■注釈

JETプログラム：「語学指導等を行う外国青年招致事業事業」(The Japan Exchange and Teaching program)の略称で、地方公共団体が総務省、外務省、文科省及び財団法人自治体国際化協会の協力のもとに実施しています。



東京研修期間中に他の中国国際交流員と一緒に。左端が鄧仁有さん

「鄧さん頑張る・日本探検記」は、2004年(平成16年)から2006年(平成18年)の2年間、青森県六戸町の国際交流員として国際友好活動にかかわった、中国山西省太原市に住む一中国人、鄧仁有さんの日本体験です。文章は原文のままです。

前回に引き続き具体的に話します。

1) 基本構文・パターンを完全に暗記して兎に角喋ろう!

100回繰り返せば誰でも覚えます。そしてそのスピードを上げて、オーバーに抑揚をつけること。日本語も同じですが、言葉はある程度のスピードで話さないと伝わらない。

機会あれば実践してみます。

【例】

I go to school.

I don't go to school.

Do you go to school?

上記を全て過去形で言う。

went, didn't... Did you... ですね。

I want to go to school.

I don't want to go

Do you want to.....?

上記を全て過去形で言う。

wanted, didn't ... Did you... ですね。

動詞を go 以外に 20 ほどの他の動詞に言い換える。例えば ; play, cook, meet, swim, sing, など。

これに 5W・IH をつけてみましょう。

Where do you go?

When do you go to school?

Why did you want to?.

読者の中にはそんなの簡単だよといわれる御仁もおられるかもしれないけど、スピードをつけて抑揚をつけて話すのは結構大変ですよ。まず大部分の人は出来ない。でもトレーニングすれば可能です。具体的な遣り方は次回以降話します。

教材として薦めるのは NHK ラジオ第二放送の英会話タイムトライアルという 10 分の番組です。テキストを買わなくても毎日聞いてみてください。

【まとめ】

▲ 大体出来たらそれを完璧に暗記して喋ってみます。

▲ 目を閉じてやったほうが効果は大。

▲ 大きい声で極端に抑揚をつけて。特に、

Why did you go there with him?

なんかは怒鳴りつけるような調子でやる。怒鳴ったり、喧嘩をするような感情的な言い方をすれば効果は大きいですよ。まじめな話。One man play (一人二役) で喧嘩をするぐらいになれば最高です。

前の会社で受講者に役割を決めて (メーカー、小売店、客) 議論させたのですが、ほんとに喧嘩になるぐらいにやってました。私はヤッターと内心小躍りしたいぐらいでした。勿論その後で飲みに行き仲直りしましたよ。

ではまた次回に。Half the bottle full. (empty ではないですよ) この意味は? (続く)

‘わんりい’ は、毎年 4 月から新年度になります。ご継続と新年度の会費の納入をよろしくお願い致します。また、新入会を歓迎します。

年会費：1500 円 入会金なし
郵便局振替口座：00180-5-134011 ‘わんりい’

‘わんりい’ の名は、‘万里’ の中国読みから付けられました。文化は万里につながるの想いからです。

主としてアジア各地から日本に見えている方々と協力し、講座、研究会、鑑賞会、展覧会等を開催し文化的交流を通して国や民族を超えた友好を深めたいと願っています。また、2 月と 8 月を除いて年 10 回、会報‘わんりい’を発行し、情報の交換に努めています。

入会されると

- ① 年 10 回おたよりをお送りします。
- ② ‘わんりい’ の活動の全てに参加できます。

問合せ：042-734-5100 (事務局)

◆ インターネット会員の制度もあります。アドレスを頂いた方に、毎月、カラーの美しい ‘わんりい’ を PDF ファイルでお送りします。こちらは無料です。

スリランカの鉄道 その2

赤岡健一郎 (日本スリランカ武道協会
日本スリランカ文化交流協会)

今回は鉄道マニア向けのヴィハーラ・マハー・デーヴィ公園にある軽便鉄道の話で終わりました。今回も鉄道マニア向けのマニユアックな話から始めようと思います。

コロンボ市内のフォート駅の近くにマラダナ車輛整備工場があります。此处ではスリランカ国鉄所有のほとんど全ての車両の点検・整備や修理を行っています。これだけでもマニユアックな話ですが、実はこの整備工場には植民地時代の 1858 年にスリランカで最初の鉄道が敷設されて以来国鉄が使用してきた、19 世紀～20 世紀に製造された英国製の蒸気機関車や客車が保存されています。

日本でならば、京都市にある梅小路蒸気機関車館やさいたま市にある鉄道博物館のメイン展示物になるような代物です。おそらく世界中の蒸気機関車愛好家にとっては垂涎の的だと思います。ところがスリランカでは、鉄道関連の博物館が将来建てられたら展示物にしようと保存しているわけではないようです。

スリランカでは日本よりも早い 1969 年に蒸気機関車の運用が廃止され、全線でディーゼル機関車の運用が始まりました。その時に使われなくなった蒸気機関車を、保存と言うよりは単に解体しないで放置してあるだけの様です。スリランカらしいと言えばそうなのですが、ある日突然思いついて解体してしまわないか心配です。

次は観光客に人気のある 3 路線を紹介しましょう。スリランカをノンビリ旅行してみたい方は是非利用して下さい。

先ずはメインラインと呼ばれる、コロンボから世界遺産の街キャンディを経て紅茶の集積地として有名なバドゥッラまでの約 292km の路線から始めましょう。

所要時間はキャンディまでは 3 時間前後ですが、キャンディから先は列車によって 10 時間前後かかる事もあるので、チケット購入時に確認してください。列車の出発時間より早めにホームに行って、席の確保

をしましょう。列車に乗ったならば、必ず向かって右側の席を確保して下さい。キャンディの少し手前のポルガハウエラからは山登り区間に入り、右側の席からは広大なジャングルや谷間にある小さな集落等の風景が楽しめます。反対側の左の窓から見えるのは崖ばかりで、これで同じ料金かと思うばかりです。

キャンディからバドゥッラまでは車窓にヌワラエリヤ等の茶畑が広がりアジアで一番綺麗な景色と紹介している旅行雑誌もあります。メインラインを走る列車には食堂車や展望車が連結されている事があります、チケット購入時にはこの事も確認しておくといいでしょう。スケジュールに余裕のある方には、キャンディで列車を降りて 1～2 泊し、仏歯寺やキャンディと周辺の町を見て回ってから改めてバドゥッラに向かう事をお薦めします。

次はコーストラインと呼ばれる、コロンボから海浜リゾート地で有名なベントータ、スリランカのサーフィンのメッカであるヒッカドゥワ、世界遺産の街ゴールを経スリランカ最南端の街マータラまでの約 156km の路線を紹介しましょう。所要時間は 4 時間前後です。

この路線では絶対に右側の席を確保して下さい。まあ、どうしても海は嫌いだと言う方は左側でも構いませんが。この路線はフォート駅を出発してすぐ、ゴールフェースホテルの裏側辺りから海岸線に出ます。此处からマータラまで、時々ジャングルの中を走る区間もありますが、インド洋に沿って南下します。沿岸近くで操業している小さな漁船や、沖を航行しているタンカーや貨物船、夕方の列車に乗ればインド洋に沈む夕日を見る事が出来ます。

メインラインと違ってこの路線では、漁村などの集落が線路の近くににあります。列車のスピードはゆっくりなのでスリランカの人達の生活を垣間見る事ができるでしょう。この路線でもスケジュールに余裕のある方には、ゴールで列車を一旦降りて 1～2 泊し、ゴールの砦（フォート）や旧市街と周辺の町を見て回っ

てから改めてマータラに向かう事をお薦めします。もっともマータラまで行かずに此处で引き返えしても良いでしょう。

次はノーザンラインと呼ばれるコロンボからクルネガラを経てアヌラダプラまで約 205km の路線を紹介しましょう。所要時間は 4 ～ 5 時間です。

この路線の特徴は何といっても、シンハラ王朝の遷都の歴史を遡る事にあります。クルネガラまではそれほど変わった景色ではありませんが、クルネガラを過ぎるとキャンディを除いてほとんどの王朝があった都市を辿って北上します。

沿線には各王朝が築いたタンクと呼ばれる貯水地を多く見る事が出来ます。人口の池ではありますが紀元前から存在している貯水池もあり、周囲の景色にす

っかり溶け込んでいます。タンクだけでなく、うっかりすると見落としてしまいそうな小さな遺跡が沢山あります。

スケジュールに余裕のある方は、お好きな駅で降りて時間が許す限り滞在する事をお薦めします。コロンボとは全く違ったスリランカを体験して頂けることでしょう。

今回は、チケットの購入方法などを紹介します。

使用済み古切手と書き損じの葉書でご支援を！

日本スリランカ文化交流協会では、スリランカへの教育支援の為、古切手と書き損じ葉書を集めています。古切手は周囲を 1cm ほどを残して切り取り、おついでに折に田井にお渡し下さい。

中国の笑い話 16(「365 夜笑話」より)

第37話：視聴覚見本

佳佳一家は、ホテルの一室で寛いでいた。父親は新聞を読み、母親は枕カバーの刺繍をし、8歳の佳佳は子供向けの本を読んでいた。

突然、佳佳が父親に訊ねた。

「お父さん、私、分からないんだけど、言い争いはどんな風にして起るの？」

父親は、新聞を脇に押しやって説明を始めた。

「何、とても簡単なことさ。例えば、この部屋の担当者が、此の階のフロア・マネージャーと仲が悪いとすると……………」

言いかけると、母親が話しに割り込んできて言った。

「そんなことは無いわ。ここの人達は皆、和気藹々と仕事をしていますよ」

「私は、例えばの話をしているんだよ」

「例えばの話でも、事実と違うことはいけないわ」

「そんなことを言うなら、君が佳佳に教えてやりなさい」

「ほら、あなたはいつもそうやって私に責任を押し付けるんだから」

「私は、責任を押し付けているわけじゃないよ。

君が難癖をつけてくるから……………」

「私が何か言うと、何でも難癖になるのね！」

「それは違うよ」

「違うもんですか……………」

此处で、佳佳が大きな声で言った。

「もういいわ！私よく分かったから」

第38話：寝てから吹くから

父親が出かける時、子供が言った。

「僕にラッパを買って来て。お願い！」

父親が言った。

「駄目だ！お前がラッパを吹くと、煩くて、私は我慢できない」

子供は言った。

「絶対大丈夫。僕、お父さんが寝てから吹くから！」

第39話：どうして？

子供：「パパ、この煙が出ているものは何？」

パパ：「覚えて置きなさい。煙が出ているのは『煙突』と言うんだよ」

子供：「あ、そう。分かった。じゃ何故パパの鼻を『煙突』と言わないの？」

パパ：……………」

(有為楠 訳)

アルジェリア料理・クスクスを味わってみよう会 講師：サミラ

於：まちだ中央公民館・調理実習室 2014年5月28日(水)

サミラさんはアルジェリアの留学生と紹介したが、実は、フランスはリヨンから漫画の勉強に日本にいらっしゃった、れっきとしたフランス人で、家族の出身地がアルジェリアなのだそう。フランスの自宅ではアルジェリア料理がよくテーブルに乗るそうで、今回のアルジェリア料理の紹介に繋がったという訳だ。

クスクスも、本来はトウモロコシの粉で作られたものらしく、日本ではデュラム小麦で作られ既に火を通してインスタント化され、現地とは調理方法が違うということも講座当日に知った。

頼りない英会話でのお付き合いで、上記のような思い違いがあったりしたが、サミラさんのおおらかで温かな人柄がとても魅力的で、参加者一同、和気あいあいと協力し合って講座を楽しんだ。指導いただいた料理は、「クスクス&羊肉のトマトシチュウ」と「クスクス&チュニジア風お魚のシチュウ」に加えて、なんとバラの花そのもののようなクッキー。



バラの花クッキーの成型では、参加者一同童心に返ってバラの花を作り上げた。蜂蜜に食紅を混ぜてピンクのシロップを掛け、焼きあがったクッキーでテーブルにもバラの花壇ができた。

(報告：田井)



さあ、頂きましょう！ ランチタイム準備完了

《'わんりい'掲示板》

◇わんりいの催し サハ共和国ってどんな国？

杉嶋俊夫さんは、一昨年春4か月間、サハ共和国の大学で教鞭をとられた折のその見聞を今年5月号まで11回に亘って「わんりい」誌に紹介くださいました。記憶の新しい内に文章では伝わらないサハ共和国をご紹介いただく機会を設けます。皆様、是非ご予約を！ **【参加無料】**

- まちだ中央公民館・視聴覚室 定員：30名
- 2014年7月11日(金) 13:30～15:00
- 講師：杉嶋俊夫
- 問合せ&申込：☎042-734-5100(わんりい)

横浜シュタイナー学園・花岡中国文化講座

花岡先生と中国の子どもの歌を歌おう！(参加無料)

- 十日市場スポーツ会館(定員：20名)
〒226-0025 横浜市緑区十日市場町1633 ☎045-983-9490
6月11日(水)、6月18日(水) 10:05～
- 十日市場地区センター(定員：20名)
〒226-0025 横浜市緑区十日市場町808-3 ☎045-981-9573
7月9日(水)、7月17日(水) 10:05～
- 申込&問合せ：花岡風子 ☎070-6465-5385

麻生市民館利用団体による見ごたえ満載の祭！

あさおサークル祭2014 2014年 6月 7日(土)・6月8日(日)

場所：川崎市麻生市民館(小田急線新百合ヶ丘北口3分)

【'わんりい'参加のプログラム】

●6月7日(土)視聴覚室 10:00～12:00

‘わんりい’お宝・京劇ビデオ「長坂坡」上映
京劇俳優・張紹成氏による解説付き

(王金璐氏紹介記事を5ページに掲載)

中国京劇界の人間国宝・王金璐(wáng jīn lù)が演ずる三国志の英雄・趙雲の美しくも迫力満点の立ち回りを見る。

●6月7日(土)大会議室 14:30～15:30

アンデスの民族楽器・ケーナの演奏

演奏者：山下孝之

どこか懐かしく、どこか心なごむケーナの音色を生かした日本的味わいのある山下孝之の作曲など多数！

◆わんりいの催し **英語トレーニングをして 日本の歌を美しく歌おう！**

◆動きやすい服装でご参加ください

まちだ中央公民館・6F視聴覚室

▲2014年6月24日(火)、7月22日(火)

▲時間：10:00～11:30

▲6月の練習歌「花は咲く」

▲講師：Emme(歌手)

▲会費：1500円(会場使用料・講師謝礼など)

▲定員：15名(原則として)

●申込み：☎042-735-7187(鈴木)

E-mail: wanli@jcom.home.ne.jp(田井)



◆わんりいの催し **中国語で読む・漢詩の会**

▲場所：まちだ中央公民館・学習室7

▲月日：2014年6月8日(日)

7月13日(日)

▲時間：10:00～11:30

▲講師：植田渥雄先生

(現桜美林大学孔子学院講師)

▲会費：1500円(会場使用料・講師謝礼など)

▲定員：20名(原則として)

*録音機をお持ちの方はご持参下さい。

◆申込み：☎050-1531-8622(有為楠)

E-mail: ukiuki65@yahoo.co.jp(同上)



◆まちだ中央公民館行き方：小田急線南口徒歩5分/横浜線ルミネ口徒歩3分 町田市原町田6丁目8-1 町田センタービル109

町田国際交流センター・協力部会の催し

【講演会】

あなたも私もできる“国際支援”二つの例

和光大学ポブリホール鶴川・多目的室(定員90名)

▲2014年6月14日(土) ▲13:15～16:15

1) 13:15～14:30 【NPO法人 ネパール・ミカの会】

こども達の未来は“識字”から始まる

講師：理事長・斉藤謹也氏

スライドを交えてネパールの教育の

現状とネパールミカ の会の支援活動の様子など

2) 14:45～16:15 【認定NPO法人 日本雲南^{れんぎ}聯誼協会】

ハードからソフトへ、日本と雲南の交流を深める教育支援



～ その活動の展開 ～

講師：理事長 ^{はじかのけいらん} 初鹿野恵蘭氏

雲南省の現状や支援活動を通して目指す新しい日中間の人材育成について

*ビデオ上映有り



問合せ：☎042-722-4260 町田国際交流センター

申込み：名前/住所/☎/参加者数を書いて下記Faxで
FAX:042-722-5330町田国際交流センター

▲第9回「弦之縁」

姜小青フレンドリーコンサート

古筝と二胡とギターの素敵なハーモニー

<http://asa-kikaku.cside.com/thoma/index.php?itemid=816>

出演：姜小青(古筝)

賈鵬芳(二胡)

嘉多山 信(ギター)



▲2014年6月13日(金)19:00開演

▲めぐろパーシモンホール・小ホール

(東京都目黒区八雲1-1-1)

●参加費：4,000円(当日/4,500円) 全席自由

●問合せ&申込：☎080-1304-7347(村山)

FAX:045-313-5188

E-MAIL: xianzhiyuan_hz@ybb.ne.jp

●主催：姜小青フレンドリーコンサート実行委員会

世界が相手の小唄名人 尺八・ソロ演奏ライブ

小唄名人・Solo Solo vol.28の今回は、ゲストに唄者大島保克さんがゲスト。沖縄・八重山の島唄に焦点を当てます。投げ銭制の珍しいライブですが、毎回、なかなか聴く機会のない特異なゲストを迎えて好評です。

●2014年7月4日(金)19:00～

●ムリウイ 〒157-0072 世田谷区祖師谷4-1-22-3F

●参加費：投げ銭制

●問合せ先：ムリウイ ☎03-5429-2033(muriwui@cafe.email.ne.jp)

敦煌壁画作品展 [入場無料]

シルクロードで結ばれた日本と中国の絆

<http://www.jcfc.or.jp/blog/archives/5115>

日中友好会館美術館

〒112-0004 文京区後楽 1-5-3 ☎ 03-3815-5085

- 会期：2014年6月10日(火)～7月2日(水)
- 時間：10:00～17:00、入場無料 会期中無休
- 主催：(公財)日中友好会館
- 協力/台東区 ● 後援/中国駐日大使館、東京藝術大学・他
- 会期中の催し/①、④は事前申込不要、参加費無料
- ①ギャラリートーク 6月10日(火) 14時～(約30分)
講師：韓 衛盟(敦煌研究院館員、東京芸術大学大学院在籍)
- ②講演会&茶話会 「敦煌研究院の古代壁画保護研究の現状」
6月17日(火) 14時～16時30分
講 師：傅 鵬(敦煌研究院館員、東京芸術大学大学院客席研究員)
参加費：500円(資料、茶話会代込)
会 場：日中友好会館大ホール(地下1階)
- ③ミュージアムミニコンサート
6月24日(火) 14時～(約40分)
出演：蔣 婷(琵琶奏者)
会場：日中友好会館美術館 *席数50。
事前申込数が席数に達しない場合のみ、
申込の無い方も着席可。立見可。参加無料
- ④第220窟バーチャルツアー
会期中の水曜日、土曜日 15時～
会場：日中友好会館美術館 *映像で窟内を探検
- 問合せ：(公財)日中友好会館文化事業部 担当：すえもり 末森



第十回日中水墨協会展

‘わんりい’ に関わり深い満柏氏主宰の、日中水墨協会が今年
は町田市内の会場で展覧会を開催します。満柏氏は、中国水
墨画の奥義「気韻生動」を精神面と造形心理学の両面から説
いて注目を浴びています。氏の指導を受けた個性あふれる作
品40点をお楽しみください。



- 町田市民ホール・ギャラリー
〒194-0022 東京都町田市森野2-2-36
- 6月12日(木)-6月15日(日)
10:00～18:00(初日14:00・最終日～16:00)
- 問合せ：日中水墨協会 045-664-3789

岡上中国語研究会新会員募集

中国語を中国人先生から直接聞いて話して勉強してみま
せんか? 中国語初めての方大歓迎。直接見学も大歓迎。

- 毎週土曜日 10:00～12:00
- 麻生市民館岡上分館(215-0027 麻生区岡上286-1)
- 講師：劉 冠群 先生(北京出身)
- 会費：月謝3,500円
- 問合せ：☎ 044-988-2031 (本間 ほんま)

E-mail: tizm2008@jcom.home.ne.jp (和泉 いずみ)

‘わんりい’ 194号の主な目次

- 北京雑感(85)お知らせ2
- 諺・慣用句(30)「一心同体」.....3
- 媛媛讲故事(64)「十五貫」IV4
- 京劇界の国宝・王金璐氏のこと.....5
- 城市めぐり(33)「揚州市」I6
- 雲南の少数民族を訪ねて俳句を詠む9
- 詩人尹世霖の童詩の世界③10
- 銘明さんが結婚しました!11
- 台北「故宮博物院」に見る古代と現代中国.....12
- 台中・頭寮山、二号登山步道.....14
- 日本探検記(14)「東京研修にて」.....16
- 外国語学習法②パターンを覚えて喋ろう!17
- スリランカ(78)スリランカの鉄道218
- 中国の笑い話1619
- ‘わんりい’ 活動報告・アルジェリア料理の会20
- ‘わんりい’ 掲示板21・22

二胡と古箏による伝統音楽と 雑技&京劇のコラボレーション

<http://www.towerhall.jp/2event/event.php>

- タワーホール船堀 大ホール
〒134-0091 東京都江戸川区船堀4-1-1 ☎ 03-5676-2211(代)
都営新宿線 船堀 徒歩1分
- 平成26年6月20日(金) 19:00 開演
- 会場 入場料 全席指定
大人3,800円/親子ペア5,000円/小学生1,200円(税込み)
■ 小学生未満のお子様の入場は、ご同伴の場合でもお断りいたします。
- ◆ 主催：タワーホール船堀
- 【出演】 かんけんみん(二胡)、
せんとうこう 銭騰浩(中国笙)、
ほーちん 何晶(琵琶)、
りせい 李倩(揚琴)、
わんみん 王敏(古箏)
TOKYO雑技京劇団
- 申込
せんとうこう 銭騰浩 ☎ 090-3097-4695



【2014年6月の定例会及びおたより発送日】

- ◆ 定例会：6月12日(木) 13:30～
三輪センター・第3会議室
- ◆ 7月号おたより発送日：6月30日(金) 10:30～
三輪センター・第3会議室 お弁当を持参下さい。